

尾高朝雄 （尾高朝雄） 法哲學者、法學博士。明治二十二年一月二十八日朝鮮京城生れ、昭和二十一年五月十五日歿（一九九一—一九五五）。第一高等學校を經て、大正十一年東京帝國大學法學部卒、次で京都帝大文藝部哲學科卒、更に同大大学院に進み法理學を研究。昭和五年京城帝大教授、この間ドイツ留學。十九年東京帝大教授。二十三年田中耕太郎、宮澤俊彥等と日本法哲學會を創設。またユネスコ國內委員会創始者の一人で、日本學術會議へ於ても指導的役割を果たした。入ノモノ主權論への是非を巡る宮澤との論争は有名。社會學者尾高邦雄、音樂家尾高尚忠の兄。

著書に『國家構造論』（昭和十一年十二月）、『五百岩波書店』（京城帝國大學法學會議刊）（）、『實定法秩序論』（昭和十七年二月）『五百岩

波書店』（京城帝國大學法學會議刊）（）、『新憲法の研究』（合著・國家學會編、昭和二十二年十月一日有斐閣）（）、『國民主權と天皇主權』（昭和二十二年十月一日）、のち十二月二十日國立書院「新憲法大系」に、『マルクシズムの對決するもの』批判と反批判』（合著・河野來生編、昭和二十四年八月十五日労働文化社）（）、『自由の體系』（昭和二十五

年八月十日弘文堂「アテネ文庫」）、『法』（昭和二十六年十月五日勁草

書房「法學叢書」）、『現代日本への考察』（合著・永田清編、昭和二十六年十一月十五日慶友社）（）、

『自由論』（昭和二十七年四月十五日勁草書房）等。

